2024年10月　毎月1日発行　第194号
発行者　光栄プロテック　松村

# 10月に向けて

代表取締役　三田雅憲

今月は「原田メソッド」の続きの予定でしたが、9月19日に行われました、枚方市、職業安定所、北大阪商工会議所主催の「業界別ガイダンス」で、私が枚方高校の学生に向けてお話しした内容を一部抜粋してご紹介します。

「当社は30人足らずの小さな会社ですが、先程パワーポイントや自社で作成した動画を使って、業界や当社の仕事の説明をしてくれた2名も、2年前に入社した若きホープであります。有名な学校に入って、有名な会社に入社し、その中で同期や先輩、後輩としのぎを削ってのし上がっていく生き方や、あるいは手を繋いで波風立てずに平凡に送る生き方もありかもしれません。私の場合、ライバルに少しでも差をつけて上にあがっていくことが目標、目的であった時期もありました。しかし、妻の願いもあって26歳の時に彼女の父親が経営していた、当時3名の職人さんだけの今の会社に入社させて頂きました。うちの両親のみならず、前職の上司からも、「小さな会社はお前には厳しいから、悪いことは言わないからやめときなさい」と何度となく言われました。もちろん厳しいという現実は、後から経験することになるのですが、それ以上に私にとってはこの会社、そして義父と一緒に仕事ができたことは、人間として本当に良かったと心から言えるのです。義父との仕事を通じて人間の生き方、受けた仕事は誠心誠意こなしていくことの大切さ、人との信頼がとても大切であること、お客様をはじめ、会社の仲間や仕入先までも長い付き合いをすること、そして何より家族を大切に思うこと。他者に悪いことをやったら、必ず自分に返ってくるという因果応報に関しても教えてくれました。そして信用や信頼があれば、お金は後からついてくることも話してくれました。このような知恵や考え方は、実の父親や前職の上司からも学ぶことはありませんでした。小さな会社の義父から教えてもらったことは、若い私の人格形成に大きな影響を与えてくれました。義父は、石川県の中学校を卒業した15歳の時に親と離れて、東京へ上京し、働き始めました。田舎の三男坊は当時、口減らしの意味もあったようです。無学、無知に加えて貧乏でしたので、厳しい環境の中で生きる為に、必死に手に職を付けて仕事をこなしていたようです。そして回り道はしたと思いますが、徐々に親方やお客様に信頼されて、頭角を表していったのです。厳しい社会の中で、どのような人を信じ、どのような付き合いをしていけば良いか、そしてお金の使い方、身の丈に合った生活の仕方なども、自分の経験を元に赤裸々に話しをしてくれました。そしてこの経験を通じて仕事をこなしていく上で、どこでやるという考えよりも、何をやるかがより大切であることを実感しております。

これから未来を担う皆さんは、素晴らしい可能性を秘めておられます。良い大学、大きな会社を目標とするだけではなく、自分が学びたいことを学べる大学や専門学校、あなたが社会でやりたいことを実現できる会社選びが大切であります。そして周囲や地域社会に少しでも喜びをもたらすことのできる人財を目指して成長されたならば、新しい事業などのスタートアップにも繋がりますし、それを応援して下さる協力者も周りに集まること間違いなしです。ただ今は、勉学に努め、運動に力を入れて、健康で社会に役立つ人間になって頂くことを心より願っております。本日はご清聴、誠にありがとうございます。」